



二 板木 正則 議員



録画映像

質問 1 市としての防災・減災に向けた今後の取り組みの予定は

市長 防災ラジオの配布や防災ハンドブックの改訂などを進める

問 近年の気象状況の変化により、自然災害に発展しかねない天候が、当市においても毎年のように見られるようになっていきます。

市として、防災・減災に向けた今後の取り組みや予定をお知らせください。

答（市長） 本市では、災害等緊急時の情報伝達の多重化を図るため、防災ラジオの導入を予定しており、現在、配布に関する基本的な考え方や導入後の運用方針等の検討を行い、今後、防災連絡会議の意見も伺いながら、準備を進めてまいります。

また、防災ハンドブックについても、新たに公表された津波浸水想定区域などを踏まえ修正を行い、市民の皆さまにとって身近で分かりやすく、実行性の高い防災ハンドブックとなるよう改訂作業を進めてまいります。

北斗消防団清川分団詰所は、防災備蓄倉庫としての機能も兼ね備えた拠点施設として、先月完成したところで災害発生

時における消防団との連携強化を図り、機動性が高まるよう運用してまいります。

問 避難所用間仕切りテント「ひなんルームなごみ」の現在の保有数と今後の購入計画をお知らせください。

また、このテントの運用方法も併せてお知らせください。

答（総務課長） 「ひなんルームなごみ」は、5年間で計画上500張りとなっていて、現在、整備・配置されているのは100張りです。計画の20%が配置済みとなっています。テントの運用については、今後の北斗地域防災計画をはじめとする各種防災計画の見直しの中で十分に検証してまいります。

問 津波避難ビルなど拠点施設には、常時、必要最小限の防災備蓄品を用意しておくべきと考えますが、市の考えをお聞かせください。

答（総務課長） 北斗市において指定している津波避難ビルの中で、高規格道路の外側（浸水区域外）については、今後、冬場の避難にも対応できるように進めていきますが、現在は、防災備蓄品は備蓄していません。

津波避難ビルのようなところも災害の状況により浸水することや季節により、様々なことが想定されます。

そういった様々な状況でどのような物を備蓄しておくべきかというのは、十分

に考えていかなければなりません。最低限、命を守るために必要なものについては今後、考えてまいります。

問 北斗消防団清川分団詰所に防災備蓄倉庫を併設されたが、現在の追分の備蓄倉庫とどのように運用していくのかお知らせください。

また、分散備蓄に対してどのように考えているかお知らせください。

答（総務課長） 追分の備蓄倉庫は新たな浸水想定では津波浸水想定区域に入っていますので、同場所での備蓄は望ましくはなく清川分団詰所併設の防災備蓄倉庫に備蓄品の大半を移す予定です。

分散備蓄については、リスクの分散という観点で必要なことであるかと思いますが、現状は管理・点検の観点、また消防団との連携強化などを図れるといったことも可能となることから、全体として清川分団詰所に置くことを考えています。

質問 2 グランポレール北海道北斗ヴィンヤードの今後の展望は

市長 本社ハワイナリーやレストラン等の建設をお願いしている

問 文月・向野地区のワイン関連施設については、醸造所や農泊施設などに国の補助金の採択もあり、一定の見通しが立ったかと思いますが、三ツ石地区にある、グランポレール北海道北斗ヴィンヤード周辺も、当市にとって非常に魅力的な地

域となる可能性を持つていると考えます。今後、メーカーとのつながりをより一層強めていく必要があると考えますが、ヴィンヤード開設からの変化や展望などがありましたらお知らせください。

答（市長） 今年7月には、メーカーとのつながりをより強めていく必要があると考え、東京の本社を訪問し、三ツ石地区へのワイナリーやレストランなどの建設についてお願いをしてきたところです。本市の経済発展につながるとともに、観光面においても、トラピスト修道院との相乗効果により、三ツ石地区の魅力がさらに増し、交流人口の増加にもつながることから、今後も可能な限りトップセーラーズを続けてまいります。



グランポレール北海道北斗ヴィンヤードからの眺望